

インターバンクの声（2016年6月7日）

米連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長は、ペンシルバニア州で開かれた講演でこれまで「数か月以内が適切」としていた早期利上げについて「より緩やかに進めるのがおそらく最良だろう」との考えに修正してきた。時期を特定することはなかったが、市場では6月の利上げの可能性が消え、9月の利上げ観測が高まり、若干ながら7月の利上げの芽も残したとの見方に傾きつつあるようだ。議長の講演後、ドル円は一時106円80銭台まで下げる場面もあったが、ニューヨーク市場の終盤には米雇用統計後のドル最安値水準から雇用統計前の水準の約半値戻しとなる107円60銭台まで回復している。これまで指標次第としていた議長が、週末の米雇用統計結果について、失望を誘う内容で注視する必要があるとしたものの、単月のデータを過度に重視すべきではないと強調、雇用統計の結果から先行きに不安が出始めていた市場に少し安心感を与えたかも知れない。こうなると次に気になるのは中国の経済指標や日銀の追加緩和といったところだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。